



Special Exhibition

Bugaku Costumes:

The Enduring Beauty of Textiles

上から：重要文化財 水干 薄紅地薔薇反橋模様（部分） 日本・室町時代 享徳3年（1454） 和歌山・金剛峯寺蔵
重要文化財 青海波 袍・下襲（部分） 日本・江戸時代 17世紀 栃木・輪王寺蔵
補綴裂 紅地二重蔓牡丹唐草模様（部分） 日本・南北朝～室町時代 14～15世紀 埼玉・遠山記念館蔵

外来の楽や舞を取り込みながら独自の発展を遂げた日本の古典芸能・雅楽。そのうち舞を伴うのが舞楽です。雅楽は、日本古来の歌舞と5世紀より中国や朝鮮半島を経由して日本にもたらされたアジア各国の楽舞が融合して原形が成立しました。その後宮廷芸能として盛んになり、10世紀には、雑多に併存していた楽舞を中国系の左方〔左舞・唐楽〕と朝鮮半島系の右方〔右舞・高麗楽〕の二つの系統に大別する整理が進みました。こうして日本独自の演出法が定められ、現在につながる形式が整えられます。舞楽装束は、左方は赤・金、右方は青・銀を基調色として、舞の担い手であった宮廷武官の制服を華やかに変化させたものです。

舞楽は宮廷のみならず有力な寺社でも盛んにおこなわれ、高野山の鎮守社である天野社（丹生都比売神社）伝来の装束には、14～15世紀の染織技術を駆使した魅力的なデザインの作例が残されています。応仁の乱（1467～77）に端を発する戦国の混乱により雅楽は大打撃を受けますが、朝廷や権力者によって復興、やがて統制されます。それにつれて装束も、宮廷ならびに東西の主要寺社では共通性の高いデザインに収斂していきます。この様子を、悠久の舞楽の伝統を今に受け継ぐ大阪・四天王寺の装束、そして約40年ぶりに公開される栃木・輪王寺蔵の優品などを通じてご覧いただきます。

時を超えて今日まで守り伝えられた舞楽を彩る装束の美をご堪能ください。

2026年 10月24日（土）～11月23日（月・祝）

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



重要文化財

りょうろう
襦褌
紺地二重蔓牡丹唐草
模様

1 領 絹

日本・南北朝時代

永和 4 年（1378）銘

東京国立博物館蔵

Image: TNM Image Archives



舶来の金襴を贅沢に用いた毛縁の襦褌。裏地の墨書から、永和 4 年（1378）に「高野山丹生社」（天野社）へ施入されたことが知られる。装束の完全な形を保つ点と合わせ、基準作としてきわめて重要。

重要文化財

くくりはかま はなだし はなわちがいもよう
括袴 縹地花輪違模様

1 腰 絹

日本・室町時代 15 世紀

文化庁蔵



くくりお
裾口に括緒を通して足首に結べるように仕立てた袴。はしりまいと呼ばれる動きの激しい舞で用いられる。紀年銘は伴わないが、高野山天野社で享徳 3 年（1454）に行われた一切経会に合わせて新調されたと考えられている。

舞絵（部分）

1 巻 紙本墨画

日本・室町時代

14 ～ 15 世紀

京都・陽明文庫蔵



生き生きとした姿態描写が魅力の白描の舞楽図巻。平安時代前期から始まる、雅楽の整理以前の姿を写している。「信西古楽図」の名でも知られてきたもので、多くの写本が存在する。本作は現存最古の写本で、諸写本は本作を基にしたと考えられている。

舞楽図巻（部分）

安倍季英筆

1 巻 紙本着色

日本・室町時代 応永 15 年（1408）

アメリカ・サンフランシスコ・アジア美術館蔵



巻末に記された応永 15 年（1408）の紀年銘により、中世に遡る数少ない成立年代の明らかな作品。着色による詳細な描写は、当時の装束の様相を今に伝える。本作は、「教言卿記」に登場する梶尾宮 義仁法親王が所蔵する舞絵を楽人の安倍季英に写させたものと推測されている。



あておび
宛帯
べにじりゅうほうおうはなからくさもよう
紅地龍鳳凰花唐草模様
1 領 絹・金銅
日本・南北朝時代
貞和 3 年（1347）銘
埼玉・遠山記念館蔵

脇が縫われていない貫頭衣である襦褌を身体に固定するために、腰の位置に締める帯。裏地に「貞和三年丁亥八月三日」の墨書があり製作年代の下限を伝える貴重な作品。



らりょうおうず
羅陵王図
伝 土佐行秀筆
1 幅 絹本着色
日本・室町時代 15 世紀
根津美術館蔵
植村和堂氏寄贈

舞楽の演目「羅陵王」（陵王とも）を舞う童子を描いたやまと絵の小品。赤い袍の上に牡丹模様の金襴襦褌と宛帯、亀甲模様の括袴を着用しており、装束が実際にどのように身に付けられたかがわかる。面をつけず天冠を戴くのは童舞であることを示す。

引き解かれた金襴製の裯襦袢に迫る

現在は解体され原形が不明な状態であるが、かつては毛縁の裯襦袢であったことが、昭和 11 年（1936）の売立目録の写真から判明した。逆冪型の襟ぐりの形状、金襴の模様が、前掲の東京国立博物館蔵の裯襦袢と似ていることから、近い時代の製作の可能性がある。

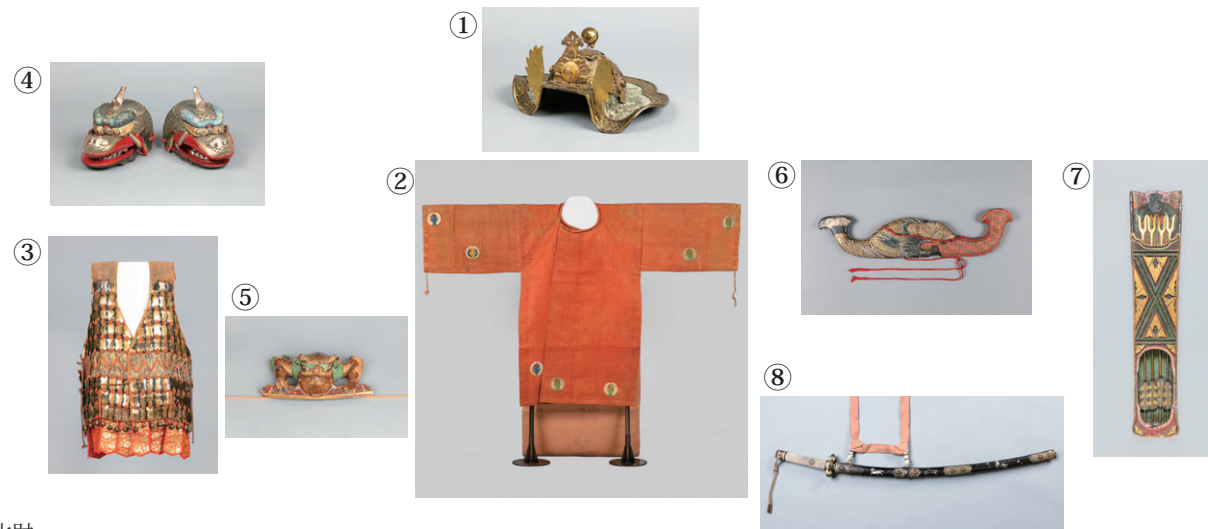


りようとうきれ べにじふたえつるぼたんからくさもよう
裯襦袢 紅地二重蔓牡丹唐草模様

1 枚 絹

日本・南北朝～室町時代 14～15 世紀

埼玉・遠山記念館蔵



重要文化財

たいへいらく
太平楽装束一式 日本・桃山～江戸時代 16～17 世紀 大阪・四天王寺蔵
かぶと ほう あかじつるまるもよう けいこう かたくい おびくい ぎょたい やなぐい た ち
①兜、②袍 赤地鶴丸模様、③挂甲、④肩喰、⑤帶喰、⑥魚袋、⑦胡籥、⑧太刀

大阪・四天王寺の舞楽は、同寺と深いかわりを持つ天王寺楽所の楽人によって古くから行われてきた。天正 4 年（1576）、四天王寺は兵火により焼失し舞楽用具も失われるが、豊臣家による寄進によって再興された。このような盛衰を経ながらも、聖徳太子の御霊を慰める「聖霊会」などの法要で現在も奏され続けている。舞楽「太平楽」は「聖霊会」の法要の部の終わりを告げる舞として欠かすことのできない演目で、その装束には甲冑や武器など 10 を超えるアイテムが含まれる。

重要文化財

かりようびん ほう あかじ こどり はなもよう
迦陵頻 袍 赤地小鳥花模様

1 領 絹

日本・江戸時代 17 世紀

栃木・輪王寺蔵



重要文化財

かりようびん ほう もえぎ こどり はなもよう
迦陵頻 袍 萌黄地小鳥花模様

1 領 絹

日本・江戸時代 17 世紀

栃木・輪王寺蔵

栃木・輪王寺の舞楽装束は、三代将軍徳川家光によって、寛永 13 年（1636）の徳川家康二十一回忌祭礼にあわせて調進された。これらは小鳥文と花文の端正な刺繍が目目をひく、童子による舞楽「迦陵頻」専用の装束。同曲は左方の舞であるため通常は赤い袍を着用するが、輪王寺には赤と青の袍が伝えられている点が珍しい。

四天王寺の舞楽装束
— 天下統一を果たした豊臣家の文化事業 —

輪王寺の舞楽装束 — 近世舞楽装束の最高峰 —

講演会
(事前申込制)

・「雅な舞の装い 天野社を彩る舞楽装束」
講師：河上繁樹 氏（大阪学院大学 教授）
日時：2026 年 10 月 31 日（土）午後 2 時～3 時 30 分

・「舞楽の演目と装束」（仮）
講師：遠藤 徹 氏（東京学芸大学 教授）
日時：2026 年 11 月 15 日（日）午後 2 時～3 時 30 分

スライドレクチャー
(事前申込制)

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。
日時：2026 年 10 月 30 日（金）、11 月 6 日（金） いずれも午前 11 時 30 分～午後 12 時 15 分
＊2 回とも同内容です。

＊10 月 13 日（火）午後 1 時より、当館ホームページで参加申込受付開始予定。
場所はいずれも当館講堂、定員 100 名です。催事参加は無料ですが、美術館入館料が必要です。

特別催事
(事前申込制・有料)

・「舞楽『陵王』一装束着装・衣紋の実演と演奏一」
日時：2026 年 11 月 8 日（日）午後 2 時～3 時
出演：東京藝術大学邦楽科雅楽専攻講師・卒業生
会場：根津美術館 講堂
定員：70 名（予定）

＊料金、出演者等の詳細は、追って当館ホームページでお知らせいたします。

3 館合同キャンペーン：秋の 3 館 美をめぐる 2026

以下の対象展覧会の観覧済入館券を集めるとお得な特典をご用意しています。詳細は各館にお問い合わせください。

三井記念美術館： 9 月 12 日（土）～11 月 23 日（月・祝）	館蔵の茶碗 100 撰—国宝から手造茶碗まで—
五島美術館： 10 月 27 日（火）～12 月 6 日（日）	室町ごろの風景—光輝く四季と連歌懐紙の美—
根津美術館： 10 月 24 日（土）～11 月 23 日（月・祝）	舞楽装束—受け継がれる染織の美—

展示室 5 白描の美

墨の細線を主とする白描画。中世以前の仏教図像や絵巻の下絵、近世のやまと絵、さらに近代画まで、静謐なモノクロームの美をご覧に入れます。



源氏物語画帖「賢木」
伝 住吉具慶筆
1 帖 紙本墨画淡彩
日本・江戸時代 17 世紀
根津美術館蔵

嵯峨に六条御息所を訪ね、別れを惜しむ光源氏。近世の白描は、墨の濃淡や抑揚のある線、あるいは金なども導入して表現の幅を広げた。

展示室 6 開炉 —冬を迎える—

11 月、茶室では炉を開き、冬を迎えるために席中を一新します。一年の節目となる祝儀の茶会にふさわしく、格式高い茶道具を取り合えます。



十王口釜
天明
1 口 鉄
日本・室町時代 16 世紀
根津美術館蔵

天明釜（現在の栃木県佐野市）は、自由な形と侘びた肌合いが特徴。本作は、外に開く口作りが、十王の閻魔大王などの冠の形に似ていることから「十王口」と称される。

秋の庭園

毎年 11 月中旬から庭園の紅葉が見ごろを迎えます。
展覧会の後は、庭園散策もどうぞお楽しみください。



開催概要

展覧会名 特別展 舞楽装束 ―受け継がれる染織の美―

日時指定予約制

スムーズな入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。（招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。）

主催 根津美術館

開催期間 2026 年 10 月 24 日 [土]～11 月 23 日 [月・祝]

開館時間 午前 10 時～午後 5 時（最終入館 午後 4 時 30 分）

休館日 毎週月曜日（11 月 23 日 [月・祝] は開館）

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1600 円 / 学生（大学生以上） 700 円
当日券（当館受付で販売） 一般 1800 円 / 学生（大学生以上） 900 円

- ・ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券は購入までお待ちいただくことがあります。
また混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。
- ・障害者手帳提示者及び同伴者 1 名は上記料金から 200 円引き。高校生以下は無料ですが学生証の提示が必要です。
- ・2026 年 10 月 13 日 [火] 午後 1 時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・オンラインでのご予約は 1 グループ 10 名までとさせていただきます。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口（階段）より徒歩 8 分、
B4 出口（階段とエスカレーター）より徒歩 10 分、B3 出口（エレベーターまたはエスカレーター）より徒歩 10 分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536（代表）
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の 学芸部 広報課 所／村岡
お問合せ Tel. 03-3400-2538（直通） e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。（press@nezu-muse.or.jp）

次回展

企画展 彫る漆

2026 年 12 月 5 日 [土] ～ 2027 年 1 月 17 日 [日] （12 月 26 日 [土]～1 月 4 日 [月] は全館休館）

ちょうしつ かまくらぼり そうきん てんしつ きんま
彫漆、鎌倉彫、鎗金、填漆、蒔霽など、
「彫る」ことで表現する漆工技術を集
集します。東アジアで見られる様々
なバリエーションをお楽しみくださ
い。



左：
重要文化財 楼閣人物填漆筆筒（天面部分）
中国・明時代 15 世紀
右：
牡丹堆朱盆 中国・明時代 15 世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。（2026.8）